

1 研究主題

英語を使って自ら人と関わろうとする児童の育成
～英語好きな児童を育成する英語科指導の工夫～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

技術の急速な進歩により、社会や経済のグローバル化が急速に進展している。それに伴い、知的財産や技術、人材をめぐる国際競争が過熱している。一方で、異なる文化の理解や、国家・民族との共生、協力も求められている。これらの社会の変遷を受け、学校教育においても外国語教育を充実させることが、重要な課題の一つとなっている。

学習指導要領では、外国語活動の目標について、以下のように示している。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

これらを踏まえ、小学校段階で外国語に触れたり、体験したりする機会を児童に与えることにより、中・高等学校において、円滑な英語学習を進めていくための素地を育成し、コミュニケーション能力を育成することが求められている。

(2) 学校教育目標から

山梨小学校教育目標

心豊かに学びを拓く実践人
一人や自然を大切にし、社会に学びを拓く児童の育成

本校では、地域社会と関わりながら自ら学び、確かな学力を備えた心身ともに健やかな児童を育成することを目指している。英語科学習においても、基礎的基本的な知識及び技能の習得を図り、学習習慣づくりを行い、確かな学力の育成を図ることを重点としている。人的環境を生かした体験的な学習の機会を計画的に設け、体験に基づいた確かな理解を促すことが、心豊かに学びを拓くことにつながると考える。そのために、英語科学習において外国の文化や言語に興味を持てるような授業改善、環境整備を行っていきたいと考える。

(3) 児童の実態から

本校児童は素直で、友達や教師と進んで関わろうとする児童が多い。また、四街道自然同好会を始め、防犯パトロール隊、食と緑の会など、地域の様々な方々と関わりをもつ学習が多く、学校以外の人とコミュニケーションを取る活動に恵まれている。学習に対する意欲は高く、国語科や社会科は比較的基礎的な学力が身につけていると言える。課題としては、個人間や学年間で学力に偏りがあること、集中できる教科とそうでない教科に差があることが挙げられる。英語を話したいという意欲は高いが、日常での活用場面が少なく、授業の中だけの英語にとどまっている現状がある。

本校は平成29年12月より、文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、平成30年度・31年度は四街道市の英語教育推進モデル校となった。平成30年度より、高学年は週2時間、低・中学年は週1時間の英語科が必修となっている。これを受けて、英語科の授業やALTとの連携等、指導方法や形態を充実させていく必要がある。どの学級担任も自信をもって指導に当たれるよう、学校全体で英語科指導に取り組んでいく。

本校の英語科学習のねらいは、コミュニケーションツールとしての英語を身に付け、英語を使って自ら人と関わろうとする児童の育成にある。このねらいを達成するためには、教師の英語の指導力の向上や、授業展開の方法、教室環境・校内環境の整備が必要である。また本研究を通して英語好きな児童を育成することがねらいの達成につながると同時に、英語を使って世界の人々とつながっていこうとする意欲を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

3 研究の目標

目指す児童像

- ①英語で話そうとする意欲を持った児童
- ②コミュニケーションの技能を身に付けた児童
- ③英語への興味・関心をもった児童

4 研究の仮説

仮説 1

英語科授業の中で、児童が自ら会話するような指導過程を工夫すれば、意欲的に英語を使ったコミュニケーションが取れるようになるだろう。

(手立て)

- ・どんな場面で使う英語なのか、状況設定を明確にする。
- ・変化のある繰り返しによる発話練習をする。
- ・児童が楽しんで取り組めるアクティビティを行う。

仮説 2

児童の日常生活に関連した英語環境を整えれば、英語を使おうとする意欲が向上し、コミュニケーションを図ろうとする態度が育つだろう。

(手立て)

- ・日常生活に密着した掲示や、毎回の英語科学習で使う Emotions と Weather の掲示、学習の見通しが持てる掲示をする。
 - ・月に1回程度イングリッシュデーを開催し、児童が日常で英語を使う場面を設定する。
 - ・年に2回程度英語のたてわり集会（じゃんけん列車、自己紹介ゲーム、歌等）を実施し、遊びを通して英語を使ったコミュニケーションを図るようにする。
- ※授業研修会や日常の実践を通じ、手立ては常に検討していく。

5 研究の方法・内容

(1) 研究の具体的な取組

月	日	曜	内容	形態
4	10	水	エビペン研修会 講師：本校養護教諭	実技
4	11	木	デジタル教材使用法研修会 講師：本校研究主任・英語科主任	模擬授業
4	18	木	山梨小英語科授業の基本型確認 講師：本校研究主任・英語科主任	模擬授業
5	9	木	イングリッシュデー	
5	16	木	授業研修会役割分担・指導案様式確認 提案：本校研究主任	全体
5	23	木	救命法研修会（会場：旭小学校）	実技
6	6	木	英語科授業構想・本時案検討	模擬授業
6	13	木	イングリッシュデー・英語科指導案検討，訂正後起案	全体
6	18	火	英語科指導案発送	授業者
6	20	木	英語科指導案製本・授業準備	個人
6	26	水	第1回英語科授業研修会（2年・4年） 講師：千葉県教育庁北総教育事務所指導主事 寒川晃士先生	授業研
7	11	木	イングリッシュデー・1学期末英語科アンケート実施	委員会
7	18	木	1学期末英語科アンケート結果共有	全体
7	25	木	人権教育研修会 講師：千葉県教育庁北総教育事務所指導主事 根本幸子先生	講話

8	21	水	旭中学校区小中一貫教育全体研修会（旭中）	全体
8	29	木	教育課程伝達研修・いじめ防止伝達研修・英語科授業構想・本時案検討	全体
9	5	木	英語科指導案検討，訂正後起案	模擬授業
9	12	木	英語科指導案発送	授業者
9	19	木	英語科指導案製本・授業準備	個人
9	26	木	第2回英語科授業研修会（1年・6年） 講師：栄町立安食台小学校教頭 齋藤智子先生	授業研
10	3	木	英語科授業構想・本時案検討	模擬授業
10	17	木	英語科指導案検討，訂正後起案	全体
10	21	月	英語科指導案発送	授業者
10	24	木	イングリッシュデー・英語科指導案製本・授業準備	個人
10	31	木	第3回英語科授業研修会（3年・5年） 講師：栄町立安食台小学校教頭 齋藤智子先生	授業研
11	7	木	特別支援授業構想・本時案検討	模擬授業
11	14	木	特別支援指導案検討，訂正後起案・図画工作科授業構想・本時案検討	全体
11	19	火	イングリッシュデー・特別支援指導案発送	授業者
11	21	木	特別支援指導案製本・授業準備・図画工作科指導案検討，訂正後起案	個人・全体
11	28	木	特別支援教育授業研修会 講師：四街道市立中央小学校教諭楠川栄治先生	授業研
12	3	火	図画工作科指導案発送	授業者
12	5	木	図画工作科指導案製本・授業準備	個人
12	9	月	図画工作科授業研修会 講師：四街道市立栗山小学校教頭小林恭代先生	授業研
12	19	木	2学期末英語科アンケート実施	委員会
12	20	金	次年度年間指導計画作成分担・研究のまとめ作成分担	全体
1	9	木	次年度年間指導計画・研究のまとめ作成	個人
1	16	木	次年度年間指導計画・研究のまとめ作成	個人
1	23	木	次年度年間指導計画・研究のまとめ作成	個人
1	30	木	学力向上・研究推進委員会（今年度の研修の成果と課題について） 次年度年間指導計画作成	委員会 個人
2	6	木	学力向上・研究推進委員会（次年度の研修について） 次年度年間指導計画作成	委員会 個人
2	13	木	のびのびイングリッシュ・次年度年間指導計画作成	個人
2	27	木	次年度年間指導計画印刷・製本	全体
3	18	水	3学期末英語科アンケート実施	委員会

（2）研究組織

校長—教頭—研究推進委員会（校長，教頭，教務主任 [松下]，研究主任 [戸田]）

｜・研究計画，研究の概要の検討

├資料部（○松田，熊谷，小島）

｜・指導案の保存

｜・教材の整備

└環境部（○三木，坪内，山田（和），山田（淳））

・教室環境の提案，作成

・学校環境の提案，整備

6 研究の実践

1 学年「くだもの」

(1) 研究の実際

①本時の目標

積極的にくだものを使ってクイズを作り、尋ねたり、答えたりし、進んでコミュニケーションを楽しもうとする。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

②本時の展開

過程 (時配)	主な活動	・指導・支援●英語専科 ○評価	資料
Greeting (4)	1 あいさつをする。 ・あいさつ、天気、曜日を確認する。	・児童に気持ちよくいつものあいさつをし、楽しい雰囲気を作る。 ●HRTとともにあいさつをする。	絵カード
Review (5)	2 前時のアクティビティ (フルーツクイズ) を復習する。	・天気や曜日は全体で確認を行い、自信をもって言えるようにする。 ・くだもの色や絵を見て名称を答えるクイズをし、前時まで学習した英語表現を確認する。	
Today's goal (2)	3 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">くだものクイズたいかいをしよう！</div>		
Practice (5)	4 くだもの言い方を練習する。 ・メトロラーニング・絵カード ・『Are you hungry? Song』を歌う。	・リズムに合わせて、テンポよく、繰り返し発話練習させる。 ・全体、グループ、個人と形態を変えて発話させる。 ●正しい発音を紹介する。	メトロラーニング 絵カード CD
Practice (6)	5 くだものクイズの尋ね方や答え方の練習をする。 ・HRTとALTのデモンストレーションを見て、クイズのやり方をつかむ。	・ALTとデモンストレーションする。 ・くだもの色と形をヒントに、くだもの名前を当てるクイズのやり方を説明する。 ・HRTやALTと児童が立場を代えて尋ねたり、答えたりして練習させる。	
Activity (10)	<Black Bag Game> A: Hello. B: Hello. A: It's (Color). A: What is this? B: (Black Bag 中の物をさわってから) It's a/an(Fruit). A: Yes, That's right. No, Sorry.	・自由に相手を見つけ、クイズを出し合いながら、目を合わせて挨拶をしたり、ジェスチャーをつけて気持ちを表現したりさせる。 ○積極的にクイズを出したり、答えたりして、ゲームを楽しんでいる。 (コ・行動観察)	くだもの 模型
Review (5)	6 学習したことを復習する。 ・代表児童数名がクイズを出しみんなで答える。	・本時のねらいを確認し、よかったところを称賛する。 ・筆順に気を付けて丁寧に書かせる。	練習用紙
Writing (5)	7 アルファベットを書く。 8 振り返りを行う。	●正しく書けているか確認する。	
Reflection (3)	・本時の取り組みについてリフレクションシートに記入する。	・リフレクションシートに本時の取り組みについての感想を書かせる。	リフレクションシート

(2) 仮説の検証 (考察)

【成果】

- 児童が興味を持つようなゴールの設定ができた。
- 果物の模型という具体物を触って、その名称を当てるという活動は、五感を使って英語に触れるという点で効果的であった。
- 歌を前半にもってきたので、児童は、楽しく授業に入ることができた。

【課題】

- クイズ課題 (果物の名前) の数が多かった。児童になじみのないフルーツはなくてもよかった。その方が定着しやすいと思われる。
- 単元のまとめとしてのメインの Activity であるので、もっと時間をかけてもよかった。目指すものをはっきりさせて活動内容に軽重をつけることも大切にしたい。

2 学年 「いろ・かたち」

(1) 研究の実際

①本時の目標 (2 / 4)

色や形の名称を尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

②本時の展開

過程 (時配)	主な活動	・指導・支援●ALT ○評価	資料
Greeting (4)	1 挨拶をする。 ・挨拶, 天気, 日付, 曜日, 時間を確認する。 Hello. How are you? I' m ~. How is the weather today?	・児童に気持ちよくあいさつをし, 雰囲気を作る。 ・天気や曜日等は, 全体で確認を行い, 自信をもって言えるようにする。 ●HRT と共にあいさつをする。	ホワイトボード
Review (6)	2 フラッシュカードを用いて既習の形や色の英単語を復習する。 ・It's a (形)	・前時までに学習した英語での表現を確認する。 ・繰り返し練習し, 自信をもって言えるようにする。	フラッシュカード メトロラーニング
Today's goal (2)	3 本時の学習課題をつかむ。	色をおぼえて, たずねよう。	
Practice 1 (5)	4 新しい色の単語を繰り返し練習する。色の歌を歌う。 ・It's (色).	・メトロラーニングを活用しながら何度も繰り返し練習をする。 ●新しい単語の正しい発音を紹介する。	フラッシュカード メトロラーニング
Practice 2 (10)	5 何色かの聞き方を知り, 聞かれた色を発話する練習をする。 ・What color is this? ・It' s (色).	・リズムに合わせて繰り返し発話練習する。 ・列ごとや隣同士で練習させながら, 正しく言えているか確認する。 ・発音しながらその色にタッチする。一致しているか机間指導する。 ●正しい発音を紹介する。 ・活動の仕方を説明する。 ●HRT と一緒にデモンストレーションする。	フラッシュカード
Activity (15)	6 アクティビティ インタビューゲーム ①出会った児童とじゃんけんをし, 勝った児童が色を聞く。 ②負けた児童は聞かれた色を答える。 ③また, 交換し会話する。 ・What color is this? ・It' s (色).	○ゲームを通し, 色の名前に興味を持ち, 進んで発音したり, 聞き取ったりしている。(コ・行動観察)	フラッシュカード
Reflection (3)	7 振り返りを行い終わりの挨拶をする。 ・本時の学習を振り返り○をつける。 ・終わりの挨拶をする。	・「学習のねらい」を確認しながらレッスンのポイントを復習する。 ・リフレクションシートに本時の取組について振り返りをし, 記入させる。(コ・リフレクションシート点検)	リフレクションシート

(2) 仮説の検証 (考察)

【成果】

○歌を取り入れたことによって2年生の実態に合わせた単語練習を楽しく行うことができた。

○担任と ALT が協力して一人ひとりの発言ができていくか机間巡視しながら確認することができた。

【課題】

●Activity が簡単であった。途中でレベルを発展した活動を事前に考えておくよかった。

●児童へ評価の観点をもたせてから Activity へ入るとよかった。

3 学年「カードをおくろう」

(1) 研究の実際

①本時の目標

相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり答えたりすることができる。

②本時の展開

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

過程 (時配)	主な活動	・指導・支援●英語専科 ○評価	資料
Greeting (3)	1 あいさつをする。 ・あいさつ, 天気, 曜日を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードのリズムボックスを使いながらいつものあいさつをし, 楽しく英語を学習する雰囲気を作る。 ・学習に参加しづらそうな児童に寄り添う。 ・筆順に気を付けて丁寧に書かせる。 	キーボード 絵カード CD デッキ スマートフォン カラーズカーフ ワークシート
Sing (5)	2 歌を歌う。 『Rainbow song』 『A Whole new world』		
Writing (5)	3 アルファベットを書く。		
Today's goal (3)	4 本時の学習課題をつかむ。 欲しい色や形を聞いたり答えたりできるようになろう。 Thank you カードを作ろう。		
Practice (5)	5 色や形の言い方に慣れ親しむ。 ・リズムに合わせて, 色や形の言い方, 欲しいものを伝える言い方を練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせて色や形の言い方や, 欲しいものを伝える時の言い方を練習する。 ・「clear voice」「gesture」を大切に活動できるように声をかける。 ●HRTと一緒にデモンストレーションをする。 ○相手に伝わるように工夫しながら, 欲しいものを尋ねたり答えたりしている。(コ・行動観察) ・「Writing」で, 「you」の文字を練習したことを思い出させ, 丁寧に書くように声をかける。 	S: シール 帽子 C: カード
Activity (16)	6 アクティビティ: Sticker shop ・「shop keeper」と「customer」に分かれる。 S:Hello. C:Hello. S:What do you want?C:(Red star)please. S:How many? /No, sorry. C:Two please. S:(Red star),Here you are. C:Thank you. S:You are welcome. S:See you. C:See you. ・「you」の文字を書き入れて, 「Thank you」のメッセージを完成させる。		
Review (3)	7 学習したことを復習する。		
Reflection (5)	8 今日の学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「Today's goal」を確認しながら振り返りをする。 ・本時のめあてを確認しながら本時の学習をふり返らせる。 	リフレクションカード

(2) 仮説の検証 (考察)

【成果】

○子ども達のリフレクションシートに「楽しかった」「自分のほしい物を伝えることができた」など達成感と満足感を得ることができた。また表情が非常に良かった。

【課題】

●自分たちの親しみやすいリズムばかりで学習してしまうと, 中学校との接続を考えた時にギャップが生まれてしまう可能性がある。実際の会話や, 教師のデモンストレーションの時に自然のリズムに戻していかなければならない。

4 学年「今、何時？」

(1) 研究の実際

①本時の目標

時刻や日課を言ったり尋ねたりする。

(外国語への慣れ親しみ)

世界の国や地域によって時刻が異なることに気付く。

(言語や文化に関する気付き)

②本時の展開

過程 (時配)	主な活動	・指導・支援●英語専科 ○評価	資料
Greeting (3)	1 あいさつをする。 ・あいさつ、天気、日付、曜日を確認する。	・天気や日付等は、全体で確認を行い、自信を持って言えるようにする。 ●HRTと共にあいさつをする。	
Review1 (2)	2 チャンツを用いて復習をする。 【Let's Chant】 ・What time is it? p.15	・学習に参加しづらそうな児童に寄り添う。 ●児童と一緒に歌う。	Let's Try!2 Digital
Review2 (5)	3 日課の絵カードを用いて復習をする。	・児童とやりとりをしながら、絵カードを黒板に掲示する。 ●必要に応じて正しい発音を紹介する。	拡大した 絵カード
Today's goal (5)	4 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">何時に何をしているのか聞き取ろう。</div>		
Practice (15)	5 時刻の言い方に慣れ親しむ。 【Let's Watch and Think 2】 ・時計を完成させ、時刻と日課を線で結ぶ。 【Let's Listen】 ・時刻を聞き取り、時計を完成させる。 ・時刻と日課の言い方を練習する。	・英語専科とデモンストレーションする。 ●HRTとデモンストレーションする。 ・英語専科とやりとりをした後、重要な言い方を練習させる。 ●HRTの発音を確認し、必要に応じて正しい発音を紹介する。 ●出題する。 ・迷っている児童を支援する。	Let's Try!2 Digital p.16,17
Activity (10)	6 アクティビティ：Slap ゲームを行う。 ・読まれた時刻と日課のカードのうちどちらかを取る。	・時刻と日課を組み合わせた文を読む。 ●読まれた文を復唱させる。 ○時刻や日課を言ったり尋ねたりしているか。(慣・行動観察)	絵カード 5セット
Reflection (5)	7 ふり返りを行う。 ・本時の学習で気が付いたことを、リフレクションシートに記入する。	○世界の国や地域によって時刻が異なることに気付いたか。 (気・リフレクションシート点検)	リフレク ションシ ート

(2) 仮説の検証(考察)

【成果】

○状況設定で実際にありそうな場面を示し、英語を身近なものとして考えさせることができた。

○児童がジェスチャーをつけて意欲的に発話することができた。

【課題】

●Slap card (カルタ) のアクティビティは、速く取りたいと児童が考えるので、読む人、審判といった役割を入れて、話したり聞いたりする活動となるよう工夫する。

5 学年「できること・できないこと」

(1) 研究の実際

①本時の目標

できるかどうかを積極的に尋ねたり、答えたりして先生や友達とコミュニケーションを楽しんでいる。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

②本時の展開

過程 (時配)	主な活動	・指導・支援●ALT ○評価	資料
Greeting (7)	1 あいさつをする。 ・あいさつ、天気、日付、曜日を確認する。	・お互いに言えているかの確認をする。 ●ペア学習の際は、発音できているか机間巡視をする。	メトロラーニング
Review (5)	2 フラッシュカード、メトロラーニングを用いて復習をする。	・全体で確認後、担任とALTで個別確認を行う。	
Today's goal (3)	3 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">できること、できないことを聞いて、マイチームを作ろう。</div>		
Practice (7)	4 拡大したプリントを用いたHRTとALTのデモンストレーションを見て、状況をつかむ。 ・ペアで練習を行う。	・児童対児童のQ&A形式で、言い方を確認する。 ●HRTの発音を確認し、必要に応じて正しい発音を紹介する。	メトロラーニング
Activity (15)	5 アクティビティ「Let's Make a team!」を行う。 ・お互いに質問し、回答はプリントに沿って回答する。 A: Can you (動作) ? B: Yes, I can. I can (動作). OR B: No, I can't. I can't (動作) 答えが「Yes」ならば、「What's your name?」と聴き、相手の名前を書く。 答えが「No」ならば、「Thank you.」 ・より多くのチームを作ることを目標にする。	●HRTと一緒にデモンストレーションする。 ○なるべく多くの人の名前が書けるように指導する。 ○Yes, Noの返事をもらえたらリアクションするように指導する。 ○1チーム完成したら、担任かALTのところへ行き、確認をもらうよう指導する。 ○ゲームを通し、できるかどうかを積極的に尋ねたり、答えたりしている。 (コ・行動観察)	
Writing (4)	6 フォトフォニックスの単語を書く。	・書いた後に、ALTの発音を復唱させる。	
Reflection (4)	7 ふり返りを行う。	・本時のめあてとReflectionポイントを確認しながらふり返らせる。	ノート

(2) 仮説の検証 (考察)

【成果】

- 児童の実態を生かした、テンポのよい授業を展開することができた。
- 導入時、既習事項が書かれた掲示物を活用しており、積み重ねとなって児童の力になっている。

【課題】

- 単元の最後は自分自身のことを伝えられるようにしたほうが良い。
- 現実に即した、これを使って実際に何かするというTaskの要素を取り入れた方がよい。

6 学年「自分たちの町・地域」

(1) 研究の実際

①本時の目標

相手に配慮しながら、地域にある施設や良さについて伝え、会話を楽しもうとする。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

②本時の展開

過程 (時配)	主な活動	・指導・支援●英語専科 ○評価	資料
Greeting (3)	1 あいさつをする。 ・あいさつ、天気、日付、曜日を確認する。	・児童主体で気持ちよくあいさつをし、楽しく英語を学習する雰囲気を作る。 ●HRTと共にあいさつをする。	プリント
Review (5)	2 歌を歌う。 【Let's sing a song】 ・『sing(The Carpenters)』	・歌を歌い、楽しく英語を学習する雰囲気を作る。 ●発音を意識させながら、一緒に歌う。	
Today's goal (2)	3 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分たちの地域を紹介しよう。</div>		
Review2 Practice (10)	4 地域を紹介する言い方に慣れ親しむ。 ・HRTと英語専科のデモンストレーションを見て、復習をする。 ・地域を紹介する言い方を練習する。	・英語専科とやりとりをした後、重要な言い方を練習させる。 ●HRTの発音を確認し、必要に応じて正しい発音を紹介する。 ・相手とのやりとりを意識させながら、活動の仕方を説明する。	パンフレット
Activity (15)	5 アクティビティ 「I live in Yotsukaido!」を行う。 ・2人組のペアで自作のパンフレットを持ち、友達や授業参観者に地域についてを紹介する。 ・紹介する文章は交互に変える。 ・紹介を終えたら確認のシールをもらう。	●HRTと一緒にデモンストレーションする。 ・実際の話す場面を想定させ、初対面の人でも積極的に話しかけるよう指導する。 ○相手に配慮しながら、地域にある施設や良さについて伝えたり、会話を楽しんだりしているか。(コ・行動観察)	
Writing (5)	6 単語を書く。 「park」「bank」「pool」	○相手に配慮しながら、地域にある施設や良さについて伝えたり、会話を楽しんだりしているか。(コ・行動観察)	ワークシート リフレクションシート
Reflection (5)	7 ふり返りを行う。 ・本時の学習で気が付いたことを、リフレクションシートに記入する。	・音の確認をしてから書くよう指導する。 ・本時のめあてを確認しながら本時の学習をふり返らせる。 ・一人一人発音の確認を行う。 ●児童の発音を確認し、必要に応じて正しい発音を指導する。	

(2) 仮説の検証(考察)

【成果】

○悪い見本をデモンストレーションで見せて、子どもに考えさせるのが良かった。

○友達同士でペアになって活動させたのが効果的だった。

【課題】

●「相手を意識して・相手に配慮しながら」というねらいを、めあてのところに入れておくと良かった。

●子どもに「発音は難しい」と思わせないようにする工夫をしていくと良い。

7 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- 研究2年目ということもあり、教師も児童も英語の授業に慣れてきていた。
- 教師がデモンストレーションを行ったり、授業の流れを考慮した活動を工夫できたりしていた。
- 児童は、ジェスチャーが定着してきていて、表情が良く成就感や満足感を得る場面が多かった。英語に親しみ、これまでの学習で習得した英語を自然に使うことができていた。
- アンケートの変化から、成果ができていくことがわかる。リスニングやライティングの値が高く、これまでの積み重ねが感じられる。
- イングリッシュデーでは、朝の放送とお昼の放送で英語を使って発信することで、日常的に英語に親しむことにつながった。また、のびのびイングリッシュでは、全職員や地域の方々とも協力して楽しく活動する機会になり、児童のモチベーションも上がっていた。
- 絵付きのカードを多用し、視覚化したことで耳と目から抵抗感なく単語が身についた。

(2) 今後の課題

- 積み重ねも大切ではあるが、繰り返しの練習色の強い授業にならないようにする。何度も習熟させるようにする。
- 高学年には、「自分の考え、思いを伝えること」を意識させていけるような場面設定や必然性のあるシチュエーションを工夫していく必要がある。
- 書くことに関しては、授業の流れを工夫していくとともに、書くことが難しいと感じられる児童への手立ても工夫し、聞く・話す・読む・書くことをバランスよく仕組んで低位な児童がスムーズに参加できるようにするための工夫が必要である。